

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和3年 6月 17日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所 愛知県北名古屋市熊之庄十二社66-3	
氏 名 ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	
生産本部 名古屋工場 Tel 0568-21-1031	
工場長 水野 和也	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	
代表取締役社長 征矢 真一	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
事業場の所在地	愛知県北名古屋市熊之庄十二社66-3
計画期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	⑩：飲料・たばこ・飼料製造業
② 事業の規模	製造出荷額 2,560,600万円
③ 従業員数	106人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1の通り

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙2の通り			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙3-1の通り		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙3-2の通り		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 混合廃棄物を更に分別を行いビニール及びプラスチックの分別を徹底し有価物引取を行う。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・電気部品の有価物化を実現する。 ・動植物性残渣の更なる分別により多様なりサイクル処理を行えるようにする。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	14025.0 t	t
	(これまでに実施した取組) ・汚泥脱水機の適正な維持管理		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	13323.80 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・脱水機のメンテナンスを行い、含水率低減に努める。 ・排水処理設備における薬剤を検討し含水率低減に努めていく。 ・含水率の低減できそうな設備の導入		

(第4面)

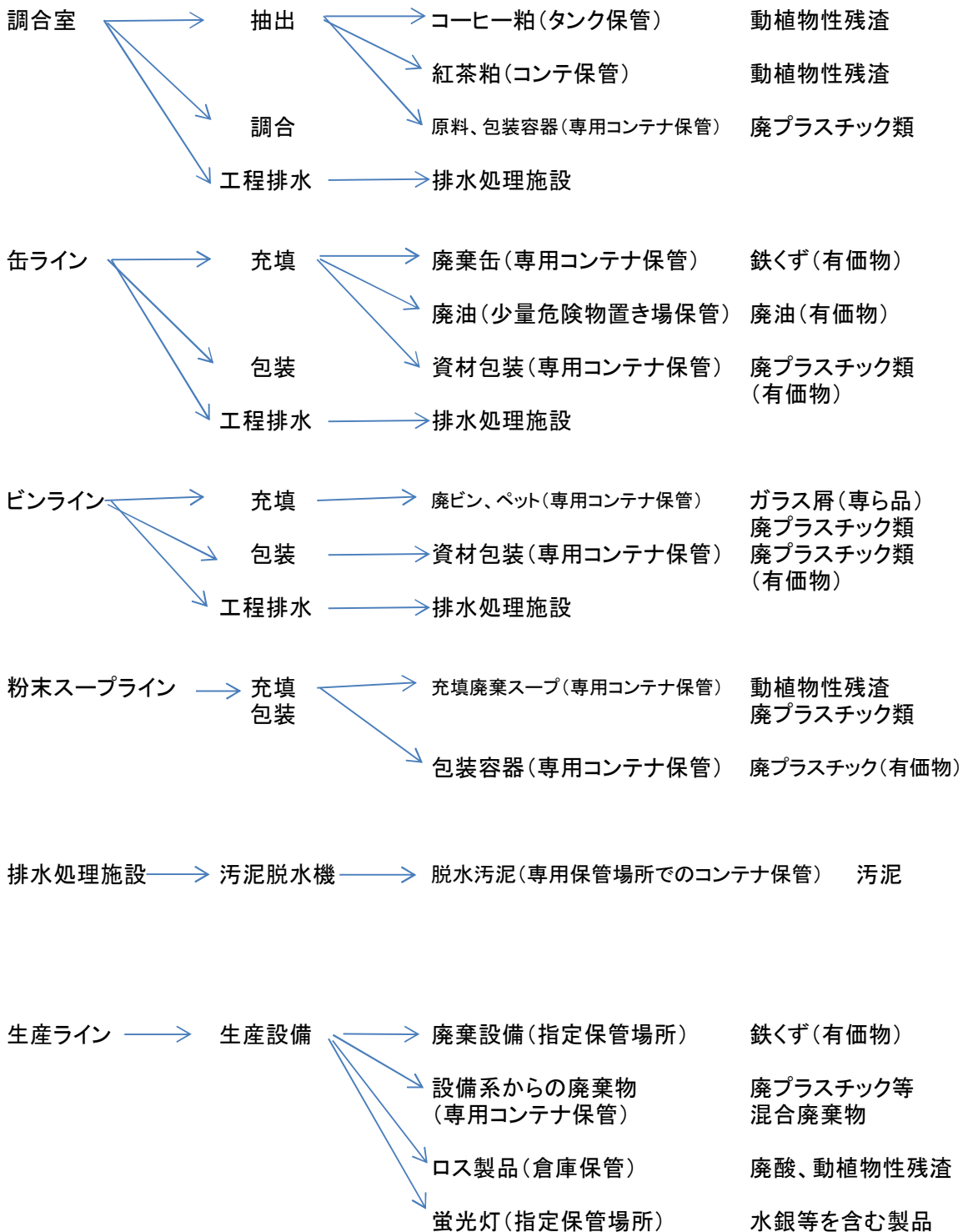
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4-1の通り		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	別紙4-2の通り		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

ポッカサッポロフード&ビバレッジ名古屋工場 廃棄物発生フロー



別紙3-1 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状 前年度(令和2年度)実績

廃棄物の種類	排出量(t/年)	これまでに実施した取り組み
ガラス屑	66.90	ガラス色による分別を実施
汚泥	14,025.00	・脱水機の運転管理を確実に実施することで含水率低下を図り、減量化に取り組む ・低含水率に向けた薬剤を導入
廃プラスチック類	56.80	ビニール袋等を分別し有価物化を実施 ペットボトルの洗浄分別を実施
金属屑	7.80	1斗缶、ドラム缶等を有価物化を実施 生産工程ロス及び資材ロスの削減
動植物残渣 (コーヒー、茶粕)	717.00	コーヒー粕搬出は来年度から生産がなくなる予定
廃酸	158.00	生産ロスを削減する
動植物性残渣 (粉末スープ)	119.00	生産効率の向上、ロスの削減
合計	15,150.50	

備考

別紙3-2 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

②計画 目標(令和3年度)

廃棄物の種類	排出量(t/年)	今後実施する予定の取り組み
ガラス屑	60.20	製造ロス,資材管理の徹底により廃棄を減少させる
汚泥	13,323.80	運転管理の徹底及び薬剤等の使用を図り低含水率で運転を実施する
廃プラスチック類	51.10	・原料の包装容器等を通い箱形式に変更する。又包装材料メーカーに返却を検討する。 ・分別の徹底を図り有価物の比率を上げる
金属屑	7.00	資材廃棄及び工程廃棄ロスを削減する
動植物残渣 (コーヒー、茶粕)	645.30	コーヒー粕搬出は来年度から生産がなくなる予定
廃酸	142.20	生産効率の向上、ロスの削減
動植物性残渣 (粉末スープ)	107.10	生産効率の向上、ロスの削減
合計	14,336.70	

備考

別紙4-1 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①前年度(令和2年度)実績・現状

廃棄物の種類		ガラス屑	汚泥	廃プラスチック類	金属屑	動植物性残渣 (コーヒー・茶 粕)	廃酸	動植物性残渣 (粉末スープ)	合計
全処理委託量(t/年)		66.9	701.3	56.8	7.8	717.0	158.0	119.0	1826.8
優良認定処理業者への 処理委託量		0.0	119.6	0.0	0.0	173.1	0.0	0.0	292.7
	再生処理業者への処 理委託量	66.9	701.3	56.8	7.8	717.0	158.0	119.0	1826.8
	認定熱回収業者への 処理委託量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処理 委託量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

これまでに実施した取り組み

再生利用業者との処理契約で実施している

汚泥脱水機での汚泥の含水率低下に向けて脱水率向上薬剤の使用を実施

活性汚泥での適正な余剰汚泥の管理

プラスチック、ペットボトルなど原料容器を有価物化にする

包装ビニールを有価物にする

別紙4-2 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

②計画 目標(令和3年度)

廃棄物の種類		ガラス屑	汚泥	廃プラスチック類	金属屑	動植物性残渣 (コーヒー・茶粕)	廃酸	動植物性残渣 (粉末スープ)	合計
全処理委託量(t/年)		60.2	666.2	51.1	7.0	645.3	142.2	107.1	1679.1
	優良認定処理業者 への処理委託量	0.0	0.0	0.0	0.0	200.0	0.0	0.0	200
	再生処理業者への 処理委託量	60.2	666.2	51.1	7.0	645.3	142.2	107.1	1679.1
	認定熱回収業者への 処理委託量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

今後実施する予定の取り組み

本年度の生産計画では増産が見込まれる為更なる分別による有価物化を図り廃棄物削減に努める

植物性残渣の処理を従来のコンポスト化から別路の再生利用を検討する。

使用物品のグリーン購入に努める

優良認定処理業者を選定する

汚泥脱水のスクリー部メンテナンスを行い含水率低下を行なう